



# 帰国生の学校選び A to Z

## ●第41回●

### 志望校の入試難易度や合格可能性を確認する方法は？

帰国後の学校選びの際、重要なチェックポイントの一つとして入試難易度があります。大学入試では予備校や出版社の模擬試験の偏差値データが目安になります。国私立中学入試や国私立高校入試も同様です。また、公立高校入試は都道府県単位で実施されるので、地元の新聞社やテスト業者の模擬試験のデータが参考になります。これらのデータは各校・各社の出版物を入手して見られますし、ウェブサイトで「大学偏差値」「高校偏差値」「中学偏差値」などのキーワードにて検索もできます。

しかし、帰国生入試は国内生と異なった試験問題で実施する学校がありますし、同一でも入試科目が少ない学校が目立ちます。また、試験問題も入試科目も同じでも、合格基準点は低いという学校もあります。したがって、公開されている偏差値データは学校のランキングを判断する目安になり、国内生と同じ土俵で戦うとどうなのかを確認できますが、帰国生入試での合格可能性の判断までは難しいです。

では、どのようにして志望校の合格可能性を判断できるのでしょうか。模擬試験は海外では受験できませんが、一時帰国した際に受験でき、受験者の中での位置づけや志望校の合格可能性を確認できます。海外にいながら確認したい場合には、出版社の通信添削講座のテスト、海外に進出している学習塾のテストなどを受験すれば、受験生の中での位置づけを確認することができますし、志望校の合格可能性が判定されることもあります。また、公立高校の入試問題は公表されており、地元の書店で過去の入試問題集が販売されています。模範解答で自己採点し、自分の位置づけや合格可能性を判断できます。

いずれにしても、在外子女は模擬試験の受験機会が少ないので入試問題を解く習慣を意識的に作る必要があります。市販の入試問題集を利用して、時間を計って問題を解く練習を積みましょう。入試本番では、制限時間内に解答するというテクニックが重要だからです。

執筆者：丹羽 筆人（名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

